「署長が語る」

天竜森林管理署　小木曽基雄

はじめに

平成二十九年のＮＨＫ大河ドラマ「おんな城主・直虎」の舞台は遠州井伊谷であり、当署管内の現在の浜松市北区引佐町井伊谷です。

この地域は治山治水の父といわれる金原明善（きんぱらめいぜん）翁を輩出した地域でもあり、現在に至るまで偉人の功績が林業関係者のみならず、子どもたちの教育にも、また国土関係、農業関係者にも語り、受け継がれています。

明善翁が献納植林した御料林は、１３０年を経てその一部の林分が国有林に残されています。

＜展示林となっている明善翁の植林地（瀬尻）＞

１　天竜森林管理署の概要

天竜森林管理署の管轄区域は、静岡県の西部に位置する遠州地域にあり、西は愛知県三河地域、北は長野県南信州地域に接しており、この三県境域を「三遠南信」と称しています。

管理する国有林の面積は、２万２千５５９ヘクタールであり、浜松市、掛川市、袋井市、湖西市、周智郡森町の４市１町に所在します。

平成１１年３月の組織再編により天竜森林管理署に改称し、平成１３年１２月に現在所在する浜松市浜北区中瀬（当時は浜北市）に新築移転しました。

浜松市は、平成１７年７月の１２市町村合併を経て、平成１９年に政令指定都市になりました。署の近くには、新東名高速道路の浜北インターチェンジもできて車でのアクセスも格段に利便性が良くなっています。

鉄道の最寄り駅「西鹿島駅」は遠州鉄道（通称「赤電」）の終点で、浜松市の中心「新浜松駅」から北に３０分程です。天竜浜名湖鉄道との乗換駅になっていて、西は愛知県境の「新所原駅」方面と、東は「掛川駅」方面へと鉄路にも恵まれたところです。

２　天竜林業

（１）歴史

郷土の偉人、金原明善翁は、明治維新の以前から天竜川が度々、氾濫に見舞われる中、河川の復旧・防災工事に私財をなげうち尽力し、河川工事が今で云う公共工事に移行し一段落すると、上流の植林事業に尽力し、天竜人工美林を造成、現在まで継承されてきています。

それより以前、元禄（一七〇〇年頃）の時代には伊勢から苗木を取り寄せ造林が行われてきたことが、秋葉山本宮など古くからある神社に記されており、この地域がスギに適しており、崇められてきたことが、境内の大樹からもうかがうことができます。

＜山住神社の大杉＞

＜秋葉山本宮社殿＞

（２）浜松市林業成長産業化地域構想

浜松市は、政令指定都市でありながら１０万ヘクタールを超える森林を有し、森林の約７６％がスギ・ヒノキの人工林です。持続可能な森林管理であることを国際的な第三者機関であるＦＳＣ（森林管理協議会）が認証する森林（ＦＭ認証）を平成２２年から取得し、市町村別の面積では全国１位の４万４千４百ヘクタールを誇ります。

また、年間６万９千立米の木材を生産し、認証森林から搬出された林産物の適切な加工・流通していることをＦＳＣが認証（ＣｏＣ認証）する事業体数は約６０社が取得しています。

浜松市は、林野庁の平成２９年度新規交付金「林業成長産業化創出モデル事業」を活用し、品質の高い原木の増産及び需要に応じた原木の安定供給に取り組み、あわせて次代の林業・木材産業を担う人材の育成に取り組むこととしています。

当署としても、この浜松市の取組に参画・支援を行い、林業の成長産業化に貢献していくこととしています。

３　天竜森林管理署の取組

（１）　木材の生産・販売

当署の平成２８年度の木材生産量は約４千立米です。木材の販売は、あらかじめ協定した価格で契約者へ安定供給するシステム販売と、民間の木材市場に委託して競争入札により木材業者（製材所・問屋・工務店など）に販売する委託販売により行っています。

＜H28委託販売した127年生のヒノキ＞

管内には静岡県森林組合連合会天竜営業所の木材市場があり、古くから優良材の集荷地となっていて、遠方から買いつけにくる業者も多くあります。近年、高速道路が近くにできてアクセスが良くなった上、森林認証を取得した木材の入荷もあって、静岡県内の市場の中でも値は比較的良いところです。

平成２８年度限りの話にはなりますが、当署の国有林の中にある県指定の天然記念物「ホソバシャクナゲ群落」の光環境を改善するため、上層を覆っていた１２７年生のスギ・ヒノキを間伐し搬出した木材を出品しました。

金原明善翁が瀬尻官林の委託植林を始めたのが明治19年であり、この頃に植栽されたスギ・ヒノキでした。中には平均単価の約３倍から5倍に相当する立米当たり10万円から15万円で落札されたヒノキもあり、高齢級人工林の希少さを感じました。

当署では、愛知県境にある強みを活かして三ヶ日方面の国有林から生産される木材を愛知県側の木材市場に出品し、中京圏に向けて有利に販売するよう取り組んでいます。

（２）　再造林の低コスト化

近年、木材価格が低迷する中、再造林の低コスト化は林業の成長産業化を図っていく上で大きな課題です。

このような中で当署では、いかに低コストで次代の森林を造成・育成するか、職員をはじめ受注事業体も知恵を出しながら取り組んでいるところです。

＜H28年植栽地と斜め張り防鹿柵（京丸）＞

木材を生産する際は、再造林に配慮した集材方法と残渣の処理（地拵）を行い、再造林に向けて林地整理の省力化を推進しています。

苗木の植付けにおいては、花粉症対策苗や成長・形質の良い遺伝子を持ったエリート

ツリーや、植付効率の良いコンテナ苗など新たに技術開発された苗を植栽するほか、植栽本数の密度をヘクタール当たり3千本から2千本に仕立てて育成過程における密度調整の伐採を減らす計画を立てています。

下刈作業もこれまで画一的に5年生、6年生まで行われてきたことを見直し、植栽木の生育状況、阻害する植生の状況を見極め、前倒しで仕上げることでコストの低減に繋がるよう現地を見て判断することとしています。

また、近年、ニホンジカによる食害等を防ぐ為、植栽地を取り囲む防護柵を設置していますが、防除効果が高く、安価な防護柵の資材選定や設置工程の向上など、獣害対策における低コスト化を進めています。

これらの伐採・搬出から植栽・保育など、森林管理のための基盤整備として路網は必要不可欠であり、安価で丈夫な林業専用道の作設に取り組んでいます。

国有林での事業、フィールドを活用した現地検討会も積極的に開催し、民有林関係者と低コスト化の重要性を共通には認識を共有するとともに、請負事業体や民有林関係者との意見交換を実施しています。

＜H28年度実施した林業専用道現地検討会（瀬尻）＞

平成28年度は、前年度まで静岡県と連携して管内国有林で実施した「急傾斜地における架線系高性能林業機械を活用した一貫作業システム実証試験」の報告会を民有林関係者にも参加いただいて開催しました。

（３）　治山と防災

天竜川の管内上流・支流域は、南アルプスの南端に位置し、中央構造線が天竜区水窪町から佐久間町に走っており、急峻で崩れやすい脆弱な地質を呈しています。太平洋岸から湿った気流が北上すると大雨をもたらし、これまで幾たびも自然災害をもたらしています。このため、古くから谷止工や山腹工事など治山事業を実施してきています。

平成２３年の台風により水窪町において発生した山地災害は、山腹が大規模に崩落し土砂が沢をせき止めていることから、下流にえん堤を新設するとともに、今後の大雨により下流に被害をもたらさないよう、監視カメラ、水位計を設置して観測を続け堆積土砂と湛水状況を

＜H23年に発生した土砂ダムの監視データを収集する職員（水窪）＞

現在も監視しています。

（４）レクリエーションの森

国有林の中でも優れた自然景観を有し、森林浴、自然観察等に適した箇所は「レクリエーションの森」に設定し、地元自治体等が主体となって施設整備を行い、国民に憩いの場として提供しています。

平成29年度、山村地域における観光地域づくりの取組を推進するため、特に優れた森林景観を有するレクリエーションの森が「日本美しの森・お薦め国有林」として全国93箇所選定されました。その中に当署管内の「奥浜名自然休養林」も選ばれたところです。

＜パラグライダー離陸場から
浜名湖・猪鼻湖を望む（三ヶ日）＞

奥浜名自然休養林は、浜名湖の北側に位置し浜名湖県立自然公園の指定地域内に有ります。大河ドラマの舞台である浜松市北区引佐町及び三ヶ日町から愛知県境にかけて約１１平方キロにわたって設定され、低山のハイキングコースが整備されているほか、パラグライダーの離陸場もあり、ここからの浜名湖の眺望はすばらしいものがあります。

＜写真は、左から園地に隣接した間伐の状況、伐開した林間から望む、遠くに市街地ランドマーク＞

近年、遊歩道周辺の木々も成長し、眺望の利くところが少なくなってきたこともあり、ビューポイントの整備を求める声が多くなってきています。平成28年度には主伐期を迎えた歩道沿いの林分を一部伐採したほか、間伐実施箇所においては、ランドマーク（浜松アクトタワー）に向けて列状に伐採し、眺望に配慮した施業を行いました。

今後も地元自治体はじめ保護管理協議会と協力し、「日本美しの森」にふさわしい環境整備を行っていくこととしています。

むすびに

国有林に対するニーズは、地球温暖化対策のようなグローバルなものから、森林レクリエーションに対する身近な要求まで様々ですが、それだけ森林・林業の持つ国有林の果たすべき機能は多種多様なのだと思います。

私たちは、国有林を管理経営するという仕事に誇りを持って、国民の皆様の期待に応えられるよう業務に取り組んでまいります。